

令和3年度 学校評価書(自己評価)

山形県立鶴岡中央高等学校

校訓 ———— 立志・気づき・共生 ————

1 教育目標(建学の精神)

- ① 自ら思考し、創造し、自学自律の態度を身につけた人間を育成する
- ② 広い視野と洞察力を持ち、豊かな人間性と果敢な実行力を備えた人間を育成する
- ③ 自他を敬愛する精神を培い、地域や社会に奉仕し、貢献できる人間を育成する

2 本年度の重点目標

生徒が良質なモチベーションを持ち、成果が上がるように支援し褒めて育てる、コミュニケーション豊かな教職員集団と学校が大好きな生徒のいる学校をつくる。

- ① 新しい時代にふさわしい鶴岡中央高校を創造する
- ② 生徒の資質・能力を最大限に引き出す教育環境をつくる
- ③ 一人ひとりの着実なキャリア形成を進め、高い志を育てる
- ④ 日々の指導を通じて、自他を尊重する態度と他者に伝える力を育てる
- ⑤ 周りからみえる学校、地域に信頼される学校づくりに努める
- ⑥ 学習環境の整備と健康・安全教育の推進に努める
- ⑦ 新学習指導要領に基づく教育課程の実施に向けた取り組みの準備を推進するとともに、学習指導法の研修に努める

評価基準	A	達成
	B	概ね達成
	C	やや不十分
	D	不十分

重点目標	具体的方策	自己評価		学校関係者評価 意見・要望	
		今年度の成果と課題	評価		
新しい時代にふさわしい鶴岡中央高校を創造する	① 「めざす生徒像」の実現に向けて、全教職員・全生徒の共通理解の下、本校教育活動の強みを発信し、弱点克服に努める	本校の教育計画に基づき、年度の重点目標、各課・年次等の経営計画が策定され実行されている。	B	引き続き、教育計画書の内容を周知し、スクールポリシーの策定に当たり、学校教育方針・教育目標が連動する内容を検討し進めていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・素晴らしい校訓を掲げているので、生徒が日常的に意識する働きかけ、新しい時代にふさわしい鶴岡中央高校とは何なのか絶えず向き合う必要がある。 ・令和6年開校の庄内中高一貫校との関わりの中で、他中学校、高校のあり方が問われるものとする。中高一貫校にはない特色のある学校づくりをしたいものである。 ・「新しい時代にふさわしい鶴岡中央高校」とは何なのか、絶えず向き合う必要があると考える。 ・コロナ禍や自然災害多発のなかで、様々な創意工夫を共有すること自体が新しい時代に適合する個性豊かな学校づくりにつながる。「いのちを大切にすること」を学びあう機会にして欲しい。オンライン授業の可能性に先進的に取り組んでいる。 ・コロナ禍での困難な状況においても、先生方のご尽力により十分達成されていると考える。
	② 地域の中学生や保護者、鶴岡市や関係団体、企業等から期待される学校について研究する。		B		
生徒の資質・能力を最大限に引き出す教育環境をつくる	① 普通科においては、将来の学びも視野に入れ、切磋琢磨し確かな学力をもとに進路実現できるよう、一層学力を向上させる。	GIGAスクール構想実現に向けて、各教科でChromebook等を工夫しながら活用している。生徒満足度調査の結果、学習分野の評価が相対的に低くなっている。ClassroomやForm等を活用し、家庭学習が充実するよう、改善を図っている。普通科、総合学科ともに地域との関わり、地域の教育力を活用した特色ある取り組みを実施している。	C	授業改善に関するアンケートを年2回実施し、具体的な取り組みについて共有する。今後も教務課を中心として、各年次・各教科と課題意識の共有化を図り、学習習慣の定着と学力向上に努めていく。総合型選抜や学校推薦型選抜を受験する生徒が増加傾向にある。選抜試験に対応する学力や表現力の育成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・他機関との連携や地域企業との協力などを推進するなかで、生徒たちのコミュニケーション能力の向上も図られている。学びの環境の安全確保に尽力している。 ・教材研究や授業改善に工夫されており、教員間で好事例を共有するなどさらなる高みを期待する。 ・総合学科のある保護者から「子供が普通科の教室に行って情報を得ている」という話があった。総合学科で進学する生徒に向けてのサポートがもう少し必要でないか。 ・「生徒満足度調査の結果、学習分野の評価が相対的に低くなっている」とあるが、具体的にどの部分が不満なのかを明らかにし、対策していただきたい。 ・自己肯定感を高め自分の思いや考えを自信をもって表現できる生徒、相手意識をもちわかりやすく表現できる生徒の育成が求められている。そのような場を意図的に設定していただきたい。 ・年2回実施する授業改善に関するアンケート結果を踏まえ、絶えず授業を改善していただきたい。
	② 総合学科においては、地域との触れあいを大切にし、課題研究を核として、社会で活躍するために必要な学力と高いスキルを身につけさせる。		B		
	③ 研究機関との連携や、地域の自然・伝統文化・歴史遺産等を活用することにより、学習機会を拡大させ、本校教育を充実・発展させる。		B		
	④ 普通科・総合学科それぞれの、特色ある学びを進展させる教育課程の実施に努める。		B		
一人ひとりの着実なキャリア形成を進め、高い志を育てる	① キャリア教育総合実践プログラムに基づき、計画的、組織的、継続的なキャリア教育の充実を図る。	各年次のキャリア教育(地元企業との懇談会、WAKUWAKUワーク、アカデミック3days、インターシップ)は計画どおり実施することができた。進路指導に対する生徒の評価は高い。	B	普通科・総合学科ともに地域との連携を意識した探究的な学習を継続する。デザイン思考による体験学習を取り入れ探究的学びへ理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・年次を追うごとに、志をもって学ぶ意識改革を進め、志望達成に向かわせている。学校での授業を大切に家庭学習の時間確保も本人の意識を明確化させてゆく指導が大切となる。 ・3年間を見通したキャリア教育の計画のもと、卒業後の進路・生き方につながる学習内容を設定している。自ら課題をもち、実体験を通して感じ、学ぶ場を大切にしていきたい。 ・年々進学率があがっているが、就職希望者も一定数いる。地元志向が高い生徒が多いので、在学中に地域との関わりがもてるようにしていきたい。 ・コロナ禍ではあるが、工夫した地域連携を期待する。 ・コロナ禍においても各年次のキャリア教育を計画通り実施できたことは高く評価される。
	② 個に応じた進路希望の実現に向け、組織的支援体制の充実を図る。		B		
日々の指導を通じて、自他を尊重する態度と他者に伝える力を育てる	① 相手の立場や周りの状況を的確に判断する力を養い、正しいネット社会のあり方を理解させる。	生徒は概ね落ち着いた学校生活を送っている。課題を抱える生徒に対しては、担任を中心に、年次や各分掌、MH委員会等が連携し、組織的に対応する体制が整っている。日々の挨拶を大切にしている生徒、積極的に挨拶する生徒が年々少なくなってきた。新型コロナウイルス感染症予防対策を行いながら、可能な方法を検討し学校行事を実施した。運動部の地区大会(5月・9月)は中止となったが、県高校総体と県新人大会は実施することができた。団体戦及び個人での活躍を見せている。文化部においても、感染予防を講じながら県高総文祭等を実施した。昨年以上に全国・東北大会出場を果たした。	B	生徒会をはじめとして、学校全体であいさつの励行を進める。交通事故の防止、貴重品管理、スマートフォンの使い方、SNS利用について日常的に注意を喚起していく。ボランティア活動について、これまで以上に情報を提供し、活動を広げるよう意識的に勧めていく。部活動や各種行事等もそれぞれのガイドラインを遵守しながら活動を進めていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・総合学科の課題学習テーマにも「共生」の校是への意識が深まってきており、学習の成果はあがってきている。 ・これからの社会人生において「あいさつ」は基本と考える。引き続き校風委員会と連携を図って欲しい。 ・生徒間のトラブルやいじめに関して、丁寧に積極的に対応されている。 ・SNSの利用や校則等、生徒会活動における生徒主体のルール作り等を通して生徒自身がどうあるべきかを考え、判断する力を身につけていただきたい。 ・中央高校新聞に「鶴岡中央のよいところは、挨拶をしっかりとるところ」とあった。挨拶が目的ではなく、何のために挨拶するのか、今一度お伝えいただきたい。 ・プレゼンテーションは進学でも就職でも必要なスキルになってくるので、プレゼンテーションを意識した授業も頑張っていたいただきたい。
	② 日々の挨拶や対面したコミュニケーションを大切にするとともに、プレゼンテーションを意識した授業を実践し、他者に伝える力を身につけさせる。		C		
	③ 生徒の悩み・変化を見逃さない観察・声掛けと積極的面談活動を実施する。		B		
	④ 生徒会・各種委員会・部活動・ボランティア等の課外活動において、生徒の創意や自主性を育みながら、人格の錬磨に努めさせる。		B		
	⑤ 外部機関と連携して各種相談活動を充実させる。MH委員会の機能を強化し、生徒・保護者へのきめ細かなサポートを実施する。		B		
周りからみえる学校、地域に信頼される学校づくりに努める	① ホームページ・掲示板・各種たより等による保護者や地域への広報活動を充実させるとともに、地域との交流を活発にする。	学校ホームページや本校生について掲載された新聞記事等での情報発信に努めた。10月にPTA研修育成部によるPTA研修会(講師:葉一氏)をZoomで実施した。各年次を中心にマメール(メールによる学校連絡網)を活用し、家庭への情報提供を行った。	B	引き続き学校ホームページや掲示板を活用し、時宜を得た適切な情報発信と緊急連絡に努めるとともに、マメールを活用して家庭への情報提供を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・校外外と連携した事業を組むことや地域伝統の芸術文化に若い力を注ぎた創造性など、先進的に果たしてきた役割の発展が望まれる。 ・マメールを活用した情報発信は、学校の顔が見えるという意味でもよかった。 ・学習や教育活動の様子と、その成果がマスコミ報道等で取り上げられる機会が多く、生徒・教職員の励みになっているとともに、活気ある学校のイメージにつながっている。 ・地域に密着した高校のイメージがある。今後さらに高まるであろう地元からの期待に応えていただきたい。 ・ホームページ、広報は大変充実していると思う。
	② 学校公開と情報発信、地域の期待に応える学校づくりに努める。		B		
学習環境の整備と健康・安全教育の推進に努める	① 「新しい生活様式」を踏まえた、安全かつ安心な学習環境を整備する。	各分掌において、新型コロナウイルス感染症予防対策を実施している。生徒へマスクの着用、手指消毒、換気、黙食などの感染症予防を促し、安全管理能力の育成を図った。危機管理マニュアルの確認と見直しを行った。	B	新型コロナウイルス感染症予防対策の継続と、各分掌における危機管理体制及び危機管理マニュアルの確認と更新を進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・先生方が快適に、健康に活動できるよう努めてほしい。その実践的な活動や行動力が、生徒たちによりよい影響を与えている。教職員と生徒が一体となって成果をあげてほしい。 ・安心安全にご尽力いただき、大変感謝している。 ・危機管理は学校の信頼に係る最優先課題とし、予防と発生時の初動を大切に対応いただきたい。 ・オンライン化の進捗状況はいかがか? できるところかオンライン化してはいかがか。 ・C評価であった危機管理体制と施設設備の安全に力を入れていただきたい。 ・総合学科2年次から専門分野を学べる「良さ、強さ」を引き続き活かしていただきたい。
	② 新型コロナウイルス感染症予防対策をはじめとし、生徒の健康安全管理能力の育成と教育相談体制の充実を努める。		B		
	③ 危機管理体制の整備と施設設備の安全点検の推進を図る。		C		
新学習指導要領に基づく教育課程の実施に向けた取り組みの準備を推進するとともに、学習指導法の研修に努める	① 主体的・対話的で深い学びを実現するために、アクティブ・ラーニングや探究的学習についての研修と実践に努める。	探究的な学びや協働的な学びを実現するためにICT機器や学習支援ソフト等を活用した学習方法について研修を実施した。	B	GoogleWorkspaceや大型提示装置等を活用した学習方法の研修を深め、個別最適化学習の実現につなげる。	<ul style="list-style-type: none"> ・探究型や連携型、さらにはすべてがデジタル化される中で、世代を超えてのスキルアップを図り、ストレスを貯めずに進んでほしい。地域に貢献する若い力と学びが求められている。アナログの良さも残してほしい。 ・ICT教育はますます重要性を増しており、先生方の研修などの負担は少なくない。早急な大きな変化は必要ない。無理のない範囲で進めていただきたい。 ・新学習指導要領を踏まえた実践と評価のあり方について、今後も中高連携をお願いする。 ・必修教科目「公共」がどのように展開されていくか期待している。